

和蘭字彙（おらんだじい）		
A N-283	安政 2～安政 5 (1855～1858)	桂川甫周編
蘭和辞典。写本の『ゾーフハルマ』を改訂増補し、刊行したもの。前編が安政 2 年、後編が安政 5 年に完成した。		

- ◆ 『ゾーフハルマ』は印刷・刊行されなかったが、需要は大きく、その写本は全国に広まった。しかし、写本には誤写が多く、筆写料も安くはなかった（福沢諭吉の『福翁自伝』には、大名の注文により適塾の塾生が『ゾーフハルマ』を筆写するという話が出てくる）。そこで佐久間象山が嘉永 2 年(1849)、改訂増補版の出版を願い出たが、許可されなかった。その後、幕府の奥医師である桂川甫周（国興）(1826―1881) が、再び改訂版の出版を申請した。このときはすでにペリー来航(1853) 以後のことで、幕府も西洋事情を知る必要を痛感していたためか、その出版の許可が下りた。甫周は題名を『和蘭字彙』と改めて、木版にし、前編を安政 2 年、後編を同 5 年に出版した。

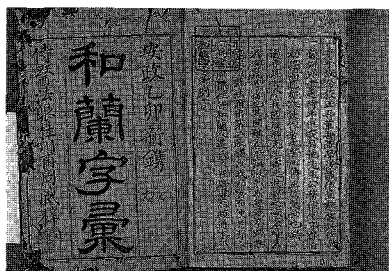
本書は半丁30行、左側にオランダ語、右側に訳語（漢字カタカナ混じり文）が、縦書きされている。オランダ語は筆記体で、訳語は見やすい楷書で、それぞれ印刷されている。基にした『ゾーフハルマ』と比較すると、その改訂の程度は軽微であり、写本と刊本、表記などの違いがみられる程度で、同一作品といってよいほどである。本書は、江戸時代における最高の対訳辞典である。現代の英和辞典やその他外国語との対訳辞典は、すべて本書に源流を発しているといってよい。

影印本に『和蘭字彙』（849-12）全 5 巻がある。

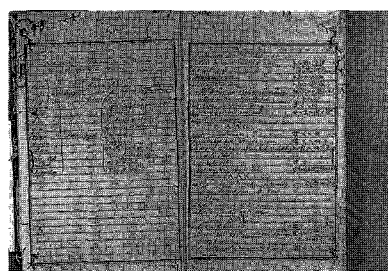
- ◆ 当館は、完全にそろったもの 4 部と、不完全なもの 1 部を所蔵している。杉本つとむ氏によれば（『江戸時代蘭語学の成立とその展開 Ⅲ』）、現存する『和蘭字彙』は、5 冊本から 24 冊本まで様々な冊数の体裁で残されている。当館所蔵分のうち、完本 4 部の内分けは、17 冊本 1 部（帙に A1～A5 の記号が付されている。以下同様）、13 冊本 2 部（B1～B6, C1～C5）、13 冊本を後に 9 冊に綴じ直したと思われるもの 1 部（D1～D4）である。

17 冊本には「外国方」の印記がある。13 冊本(B1～B6) にも「外国方」の印記があるが、その上には「静岡学校」の印記が押されている。また、C1～C5 には「蕃書調所」の、D1～D4 には「蕃所調所」（多くは上に「静岡学校」の印記が押されている）「掛川小病院」「静岡病院」の印記がある。

- <参考文献> 『江戸時代蘭語学の成立とその展開 Ⅲ』（849-2）
『和蘭字彙』（849-12） 第 1、5 巻の解説



5 和蘭字彙



5 和蘭字彙